



NACCSの更改について

2019年8月8日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

1. NACCS開発の歩み



2. 現行（第6次）NACCSの特徴

➡ 増大した利用者・提供業務での更改

- システム統合後初めての大規模な更改
 - ➡ 航空・海上システム統合（H22.2）及び 関係省庁システム統合（H25.10）、加えて港湾サブシステムの統合化
- 利用者数の増加
 - ➡ 社数で約6.5倍の増加
 - [5次更改時（H20.3）：1,849社（4,747事業所）⇨ 現在（H30.12）：12,111社（19,165事業所）]
- 提供業務数の拡大
 - ➡ 第5次NACCS更改時点の業務数：（820業務）⇨ 第6次NACCS更改時点の業務数：（1,383業務）
- 海外との新たな接続形態の増加
 - ➡ 出港前報告制度導入に伴う海外サービスプロバイダーとの接続、航空旅客情報報告・航空貨物事前報告制度に伴う航空通信回線の利用

➡ システムの安定性・信頼性の維持・向上

- バックアップセンターへの切替方法の改善による切替時間短縮、利用者側における作業の省略化
- 保守メンテナンスによるシステム停止回数の削減
- 稼働率目標値99.99%以上での信頼性の維持

➡ シングルウィンドウの推進

- 「貿易管理サブシステム」のNACCS統合（2020.6）

➡ 業務実態・使い易さを考慮した機能改善

- 業務の見直し、入出力項目の見直し、EDIの改善等

➡ 総合物流情報プラットフォームとしての機能拡充

- 船腹予約業務、危険物明細書作成業務等のシステム化
- 損害保険会社の新規参加による包括保険関連手続きのシステム化
- 荷主の情報入力を最上流とする海上輸出貨物の物流フローの見直し
- 国際標準へ準拠(EDI FACT対応、XML対応の継続)

➡ 利用者における利便性の向上

- 民間利用者からのプログラム変更要望の棚卸し（約250件の要望項目中、87項目に対応）
- 海上入出港関連業務についてWebによる業務提供

➡ 行政手続きシステムとしての機能拡充、的確な制度改正への対応

- 法人番号の導入、輸出入申告官署の自由化、通関手続に係る電子手続の原則化における国の施策等への対応
- 輸出取止め再輸入手続等のシステム化
- 出港前報告制度、旅客予約情報報告業務のシステム機能の改善
- 通関関係省庁添付登録業務の新設等の関係省庁手続き機能の改善

安定性・信頼性の高い システムの確保

- ☑ 絶対的な安定性・信頼性を確保するシステムの継続
- ☑ 情報の適正管理と情報セキュリティの確保
- ☑ バックアップ機能の改善による安定性の確保

最新技術の進展

- ☑ 仮想化・クラウド、API・RPA・AI、ビッグデータ、ブロックチェーン、IoT
- ☑ 利用者の利便性向上につながる機能の拡充

新たなデジタル プラットフォームの動向

- ☑ ブロックチェーン技術等を活用した貿易情報連携基盤の実現に向けた動き
- ☑ グローバルサプライチェーンの進展への期待

NACCS

利用者からの期待

- ☑ 行政手続システムとしての信頼性・安定性
- ☑ 総合物流情報プラットフォーム機能の充実
- ☑ 自社システムとNACCSの連携による社内業務処理の効率化
- ☑ 様々な業務処理の標準化・統一化

国の動向

(「電子政府」から「デジタル・ガバメント」へ)

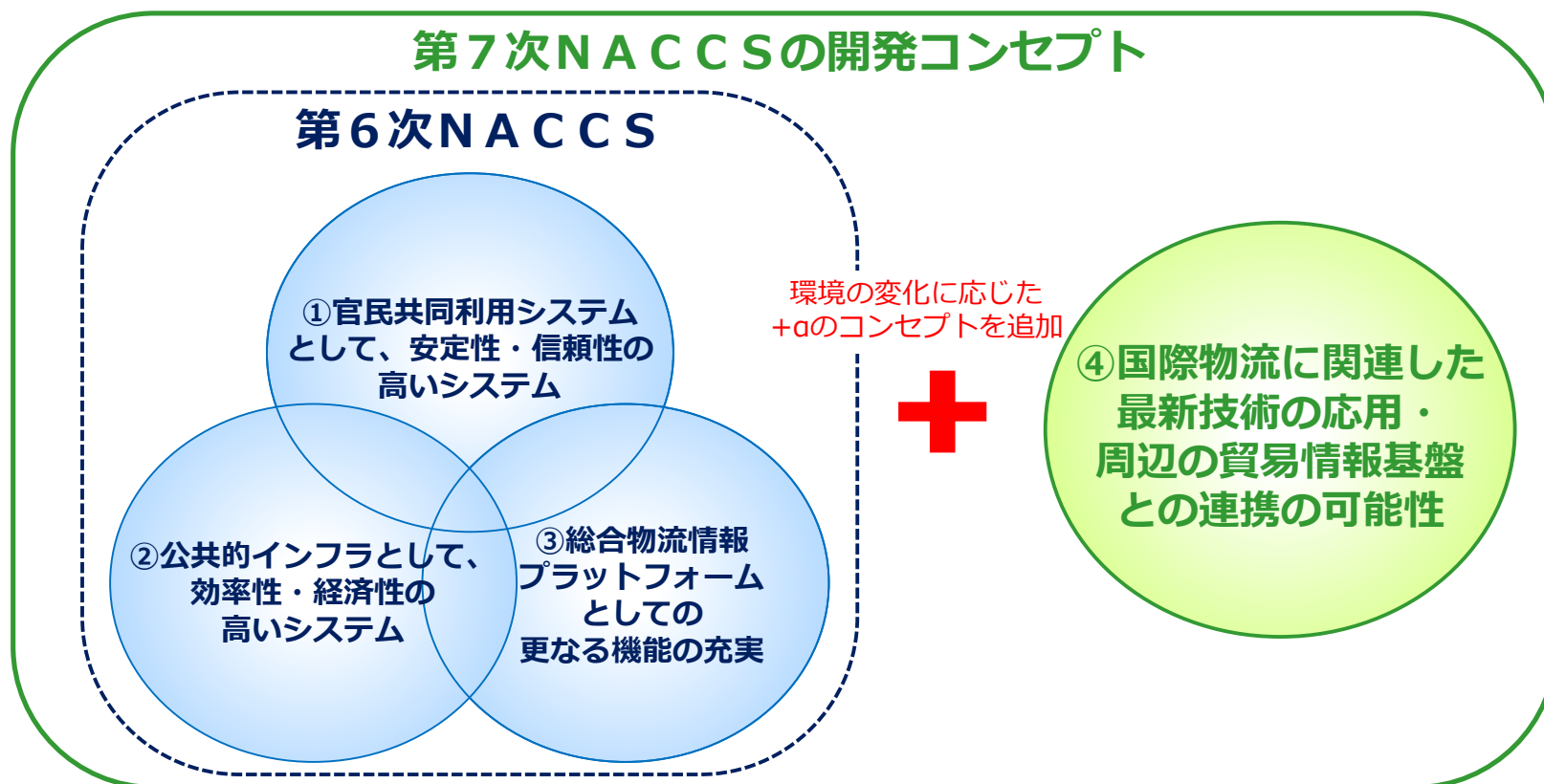
- ☑ デジタル・ガバメント実行計画の決定
- ☑ デジタルファースト法案策定の動き
- ☑ 港湾の電子化(サイバーポート)の推進

関係省庁システム との連携

- ☑ 貿易管理サブシステムの統合(2020年6月目途)により、関係省庁システムとの統合完結
- ☑ 効率性・経済性の高い公共的インフラへの期待

4. 第7次NACCS開発コンセプト（1）

- ☑ NACCSは行政・貿易手続業務の遂行に必要な不可欠な「ミッションクリティカル・システム」
- ☑ 安定稼働の確保のための信頼性・可用性・保守性の向上
- ☑ 経済性（コストの低減、効率的で簡素）と利便性（機能の拡張）の両観点を踏まえた検討
- ☑ グローバルサプライチェーンの進展に伴ったシステムの進化
- ☑ 利用者の影響を考慮した最新技術の応用への取り組み
- ☑ 各種貿易情報連携基盤構築に関する動向の注視とシステム連携の可能性の精査



※ 中期経営計画（2018年度～2020年度）に沿って、第6次NACCSの開発に当たり掲げた3つのコンセプト（①～③）を引き続き追求するとともに、④のコンセプトを加え、「安定性」と「先端性」のバランスを図りながら開発を進めていきます。

4. 第7次NACCS開発コンセプト（2）

官民共同利用システム
として、安定性・信頼性の
高いシステム

NACCSが国際物流において必要不可欠な官民共同利用の基幹システムであることを踏まえ、第7次NACCSにおいても、安定性・信頼性の高いシステムの実現を図ります。

- システムの安定性・信頼性を確保するシステム更改の実現(更改の時期、業務機能等)
- 強固な情報セキュリティ対策の実現に向けたシステム構築の検討
- 大規模災害時及び大規模障害時におけるバックアップ機能の更なる見直し

公共的インフラとして、
効率性・経済性の
高いシステム

NACCSは官民共同システムとしての公共的インフラであることを踏まえ、第7次NACCSにおいても、効率性・経済性の高いシステムの実現を図ります。

- システムの効率性・経済性を確保するシステム構成の見直し
- システム開発コストの低減化の検討
- サーバの仮想化、クラウド化によるリソースの有効活用の検討

総合物流情報
プラットフォーム
としての
更なる機能の充実

我が国の産業・港湾の競争力の維持・強化、グローバルサプライチェーンの進展を踏まえ、第7次NACCSにおいても、総合物流情報プラットフォームとしての機能の充実を図ります。

- 更なる利便性の向上を目指したプログラム変更、新規業務の検討
- インターネット経由による新たな自社システム接続方式の検討
- 様々なユースシーンに柔軟に応えるタブレット端末等によるNACCS利用の検討

国際物流に関連した
最新技術の応用・
周辺の貿易情報基盤
との連携の可能性

IT最新技術を用いたユーザビリティの改善、周辺の貿易情報基盤との円滑な連携を視野に入れ、利用者の利便性の向上を図ります。

- 最新技術の実用性の検討
- 官民で検討されている各種デジタルプラットフォーム（貿易情報基盤）との連携の可能性の検討
- 国際連携機能の更なる拡大の検討

更改専門部会の目的：次期システムの基本仕様を検討し、2019年度中に決定する

基本仕様の検討に当たって、

- ① 国際物流を取り巻く環境の変化等を考慮して情報処理運営協議会（本年3月）で承認された開発コンセプト
- ② 現行システムの評価・要望を踏まえた「利用者ニーズ」への対応
- ③ 新規事業への取り組み

により、国際物流とその関係者の利便性に寄与するシステムをめざす

基本仕様検討のイメージ

➡ 開発コンセプト＝次期システムのあり方

➡ 現行システムの評価＝ヒアリング結果の分析

➡ 現行システムの改善要望

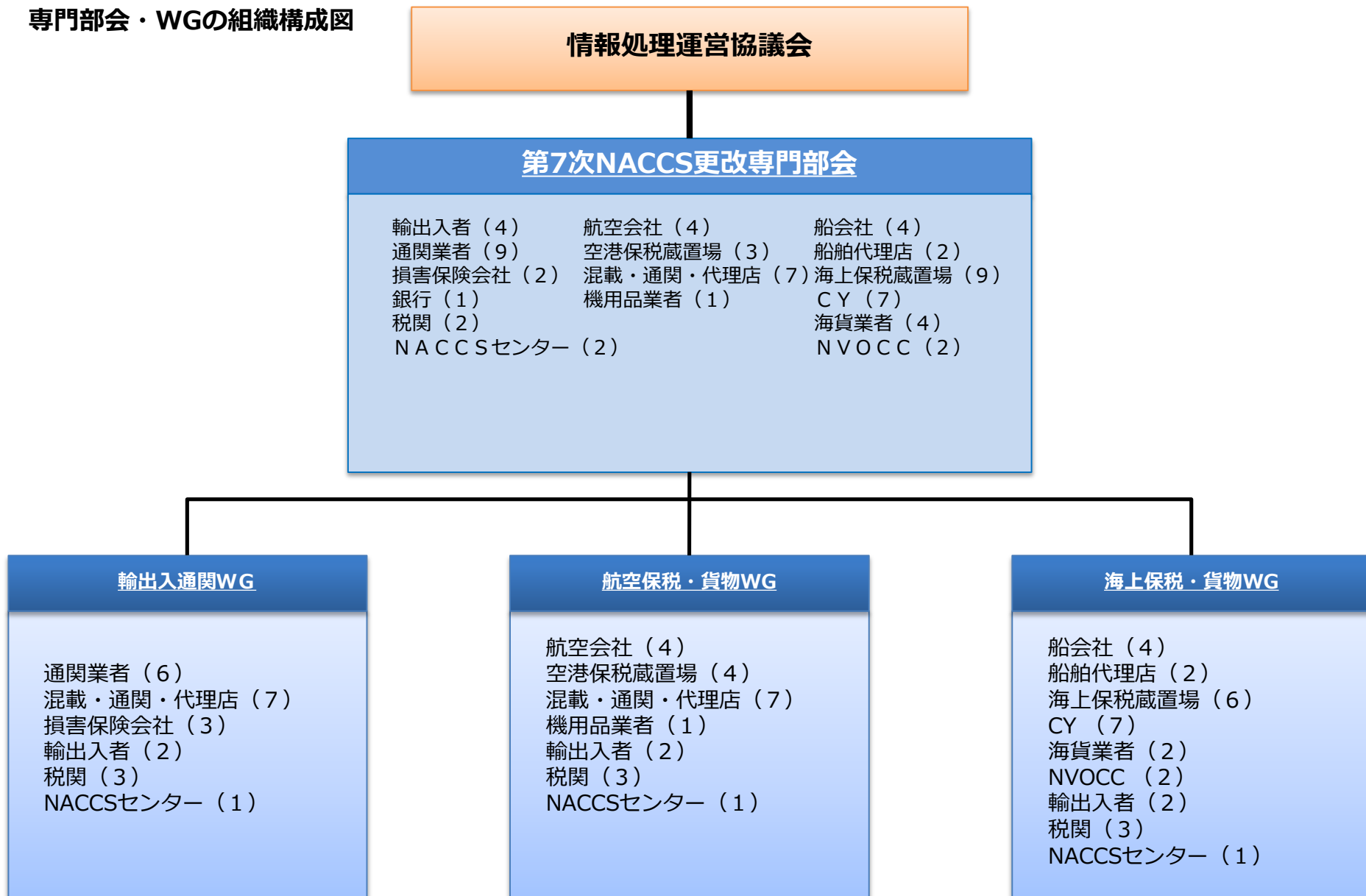
➡ 新規業務への取り組み

更改専門部会における主な検討事項

具体案をWGで検討

次期システム基本仕様

専門部会・WGの組織構成図



() 書きは委員数

7. 第7次NACCS開発スケジュール

(1) 更改時期

第7次NACCSの更改時期は、NACCSのハードウェアの保守期限等の諸要件を考慮し、2025年10月予定とします。

(2) ライフサイクル

第7次NACCSのライフサイクルは、利用者システムへの影響等を考慮し、これまでと同様に8年間とします。
 なお、中間年（4年目）での見直しも検討します。

(3) 更改スケジュール

